

# 田島中学校区学校整備計画(案)説明会

～こどもたちと生野の未来のために～



生野区長 山口 照美

# 小規模校の小学校校長から、生野区長へ

最初のキャリアは塾の校長  
小4～中3の国語と受験指導

➡ **小中連携**の重要性を痛感

浪速区敷津小学校で3年間校長  
最小人数の学年は12名  
すべて単学級（1学年1クラス）

➡ **小規模校**のメリット・デメリットを経験している

区長の前に1年間、教育委員会に

➡ **学校再編（適正配置）**は国の方針であることを理解



# 学校再編に関する行政の考え方

6年間クラス替え無し

同級生が10名程度の  
学校も出現

クラス替えができる環境、  
せめて高学年までに仲間が  
増える環境を用意したい！

教員の若年化・多忙化

隣の担任に学べない

教員同士が学びあい、  
助け合える環境を用意し、  
教育の質を上げたい！！

P T A参加者の減少

小規模校を避けた転出

まちの人口流出・高齢化を  
止めるには、子育て世代に  
選ばれる教育環境が必要

教育的・まちづくりの観点で再編は避けられない

# 教育的な観点で最初にお願ひしたこと

平成31年4月に、3学年すべてが単学級になる見込みだった**鶴橋中学校**と、同じく小規模化の進みつつある**勝山中学校**を、両校のPTA・地域のみなさんの理解を得て小学校と別に緊急に再編を実施

平成31年4月

**桃谷中学校** 開校準備中



校地は勝山中学校を活用

第2グラウンドとして  
鶴橋中学校運動場を活用

新1年生：90名程度（3クラスの予定）

H26年に示された「生野区小・中学校教育環境再編方針」では、H29年度末に西側の小学校は再編が完了しており、仲間と学びあう環境を用意できたはずでした。

しかし、賛否両論の中で進めることが難しく、今もなお小学校の再編は1校も実現していません。

その間に、たった6名で卒業してしまう学年も出ています。



# 学校再編をしなければ、どうなる？



**学級数減⇒  
教員数減**

**学年の人数減  
⇒集団教育が  
困難に**

**小中一貫校では  
ない統廃合に**

**校区外・区外への  
子育て世代流出**

反対の方の思いは受け止めつつも「再編をしない、先送りにする」ことは難しい状況です。

## 田島中学校区・平成31年度の各校予定人数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
田島小	30	33	31	25	43	34
生野南小	27	27	37	29	34	26



人数	57	60	68	54	77	60
学級数	2	2	2	2	2	2

# 田島中学校区・平成31年度の各校男女比（推計）

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
田島小	9	21	16	17	13	18	13	12	23	20	16	18
生野南小	14	13	9	18	24	13	17	12	18	16	9	17



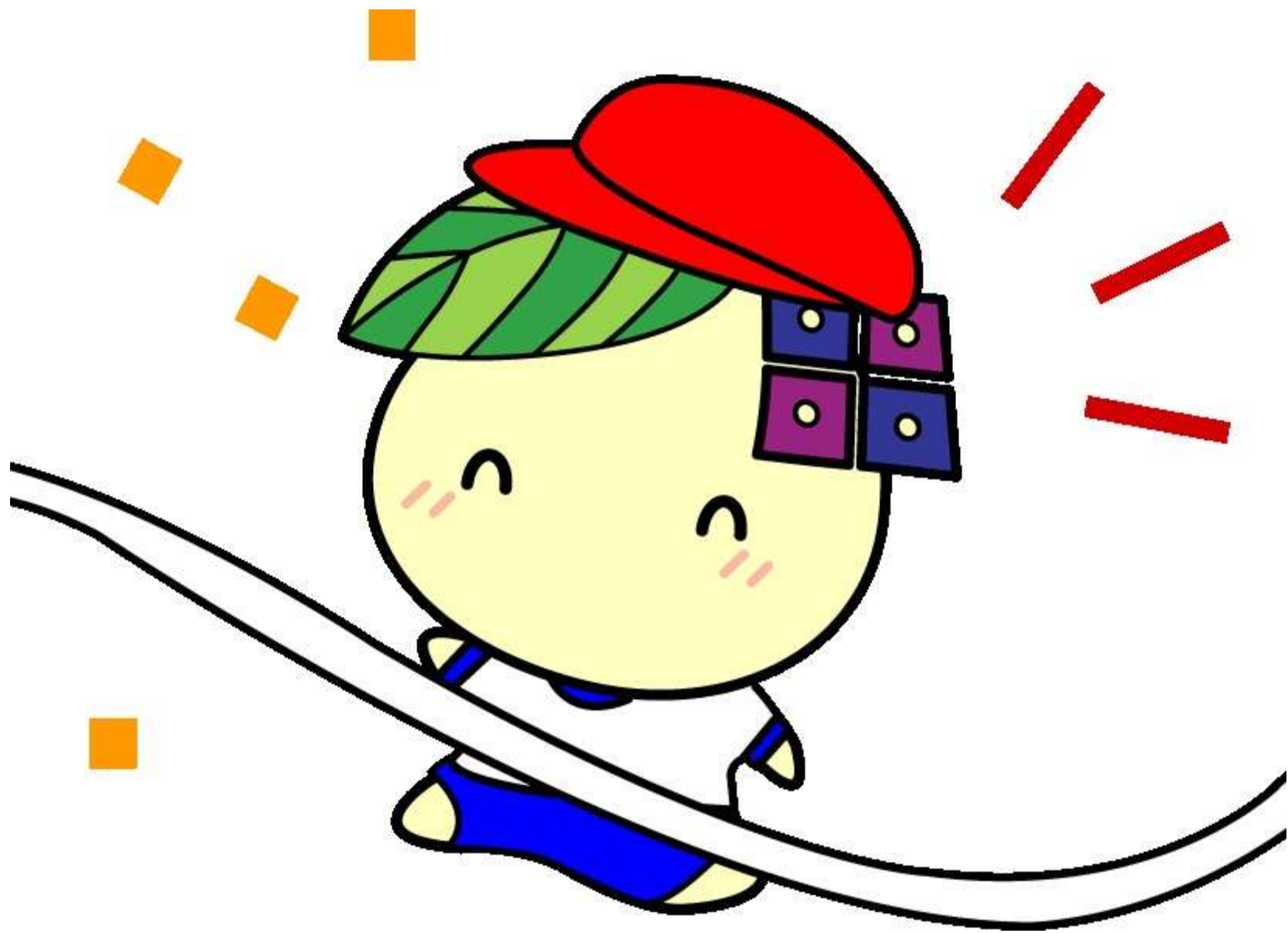
人数	23	34	25	35	37	31	30	24	41	36	25	35
学級数	2		2		2		2		2		2	

# 大阪市内の学校統廃合の状況

年	区	名称	対象校
H 2 6	浪速区	塩草立葉小	立葉小が塩草小校地に統合
H 2 7	大正区	鶴町小学校	鶴浜小が鶴町小校地に統合
H 2 7	西成区	新今宮小学校	萩之茶屋小・弘治小・今宮小を今宮中学との小中一貫校に再編
H 2 7	西成区	梅南津守小学校	津守小が梅南小校地に統合
H 2 8	平野区	長吉東小学校	長吉六反小が長吉東小校地に統合
H 2 8	東淀川区	西淡路小学校	西淡路小を淡路小校地に統合
H 2 9	浪速区	浪速小学校	日本橋小・恵美小・日東小を日本橋中学との小中一貫校に再編
H 3 0	住之江区	南港みなみ小学校	南港緑小と南港渚小を南港南中学との小中一貫校に再編



全国的には年間500校前後の廃校が生まれている状況で、日本全体の少子化の中で学校の維持運営が厳しくなっています。



## よくあるご意見①

「なぜ急がないといけないの？」  
「緊急度の高い学校から進めればよい！」



## 今後も「1学年1クラス」が継続する見込み

### 各校・新入生の見込み

※H30.5.1の校区内に居住する0～5歳児の人数を基に、  
過去の転出入・進学率を加味して推計

田島小 H32:33名、H33:27名、H34:35名、  
H35:29名、H36:26名

生野南小 H32:30名、H33:28名、H34:39名、  
H35:36名、H36:35名

各学年で単学級が解消されるまで児童数が増えればよいが・・

クラス替えのできる環境、子育て世代に選ばれる教育環境を  
一日でも早く実現したい！

## よくあるご意見②

「子どもが減った一因は交通の利便性！」  
「学校再編の前に交通問題やまちの活性化に  
取り組むべきでは？」



空き家対策や子育て支援など地域活性化の取組は進めています

子どもの数が大幅に増える見込みがない中で、小規模校での  
教育的な課題解決も必要

「子どもたちの教育環境の充実」と  
「まちの活性化」を並行して進めていきます！



## よくあるご意見③

「災害時に学校は必要！」 「跡地が民間管理になれば避難所として利用できないのでは？」



災害時避難所（防災拠点）としての機能確保が大前提

そのうえで、

コミュニティ活動の拠点機能

まちの活性化につながる活用方策を検討

民間貸出しの場合も、避難所としての利用を条件として設定  
(中学校も含めて必要な避難スペースを再整理します)

## よくあるご意見④

今の案が決まったのはいつ？  
住民の意見も聞いてほしい！



平成26年3月「生野区小・中学校教育環境再編方針」

平成27年2～8月

「これからの教育環境を考えるワークショップ」

- 《意見》 ●行政が案を示してくれないと議論できない。  
●小中学校の子どもたちの交流、教員の連携が大事。

平成27年7月「生野区西部地域教育特区構想」

中学校区を基本に学校配置を再構築し、小中一貫した教育の充実を基本方針とする。

平成29年7月「生野の教育」（中学校区別再編計画の方針）

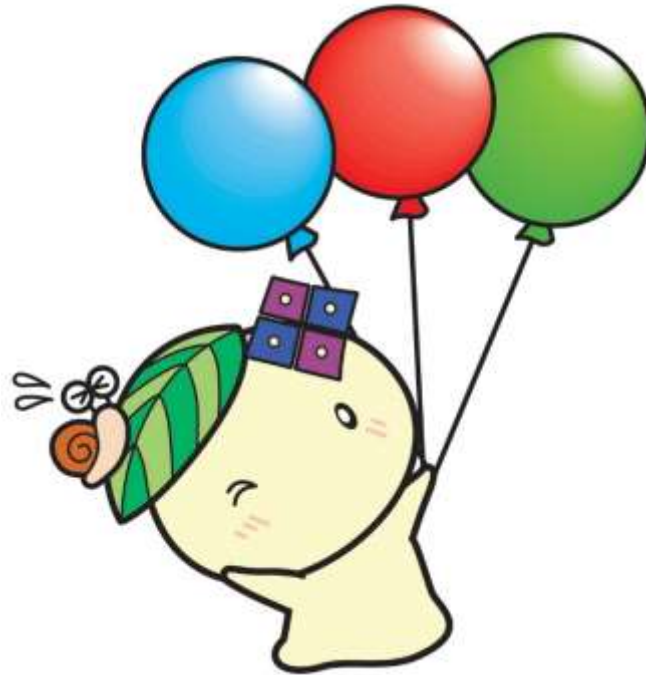
**延べ8回の説明会、地域・PTAとの意見交換を実施**

数年間にわたる話し合いの中で、今の案を固めて  
来ました。少しでも早くこどもたちに「仲間と学ぶ  
機会」をつくるために、設計予算を取り「**最短で  
H33年度開校**」の選択肢を残しています。



今日は行政として、地域・保護者のみなさんの声も  
お聞きしながら策定した「**田島中学校区学校整備計画  
(案)**」をご説明します。

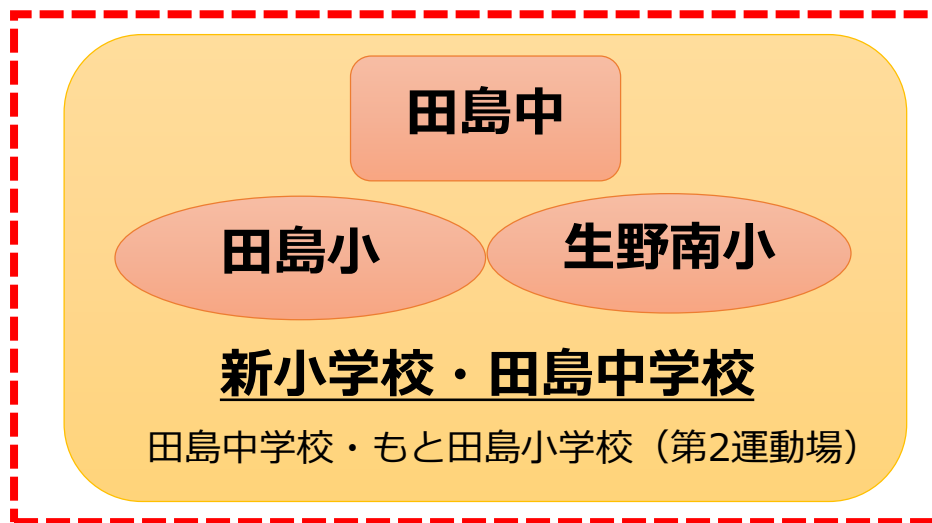
# 田島中学校区の再編案



# 田島中学校区の新たな学校配置案



- 新たな小学校（小中一貫校）の施設として活用
- △ 新たな中学校の第2運動場として活用



## 新校区の通学距離 (最長)

田島小学校区	約0.9 km
生野南小学校区	約1.3 km

# 新たな学校の児童生徒数見込み

## H30(2018)年児童生徒数

田島中  
(164名)

田島小  
(196名)

生野南小  
(176名)

1年	33名／1クラス	27名／1クラス
2年	31名／1クラス	37名／1クラス
3年	25名／1クラス	29名／1クラス
4年	43名／2クラス	34名／1クラス
5年	34名／1クラス	26名／1クラス
6年	30名／1クラス	23名／1クラス

## H36(2024)年

田島中学校  
160名／学年2クラス

新小学校  
371名／学年2クラス

1年	61名／2クラス
2年	65名／2クラス
3年	73名／2クラス
4年	55名／2クラス
5年	65名／2クラス
6年	52名／2クラス



# 新たな学校の開校時期（最短スケジュール）

2018年度  
H30年度

2019年度  
H31年度

2020年度  
H32年度

2021年度  
H33年度

田島中学校区  
将来の学校を  
考える会

説  
明  
会

田島中学校区  
学校設置協議会

開  
校



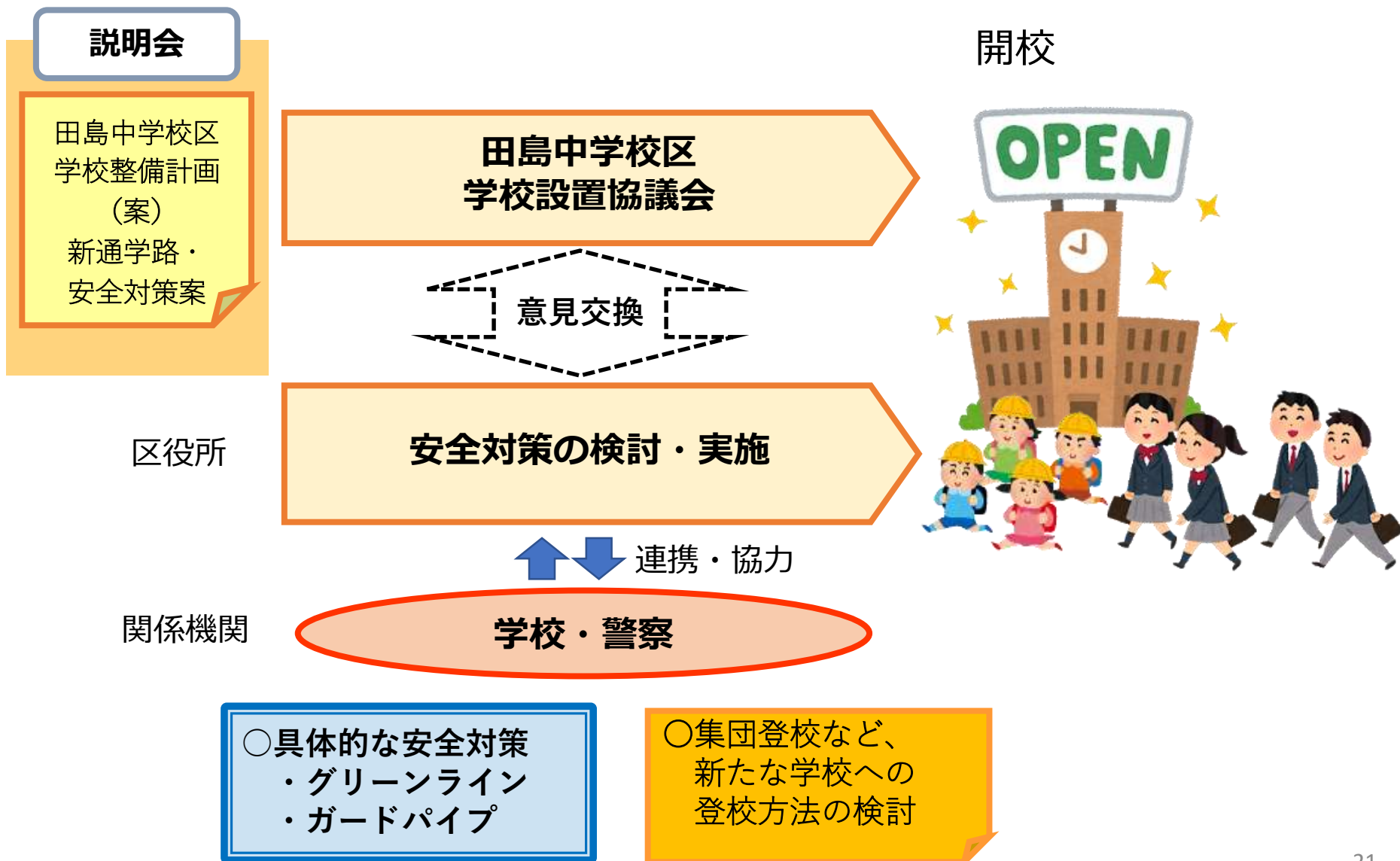
校舎建設設計

校舎建設工事

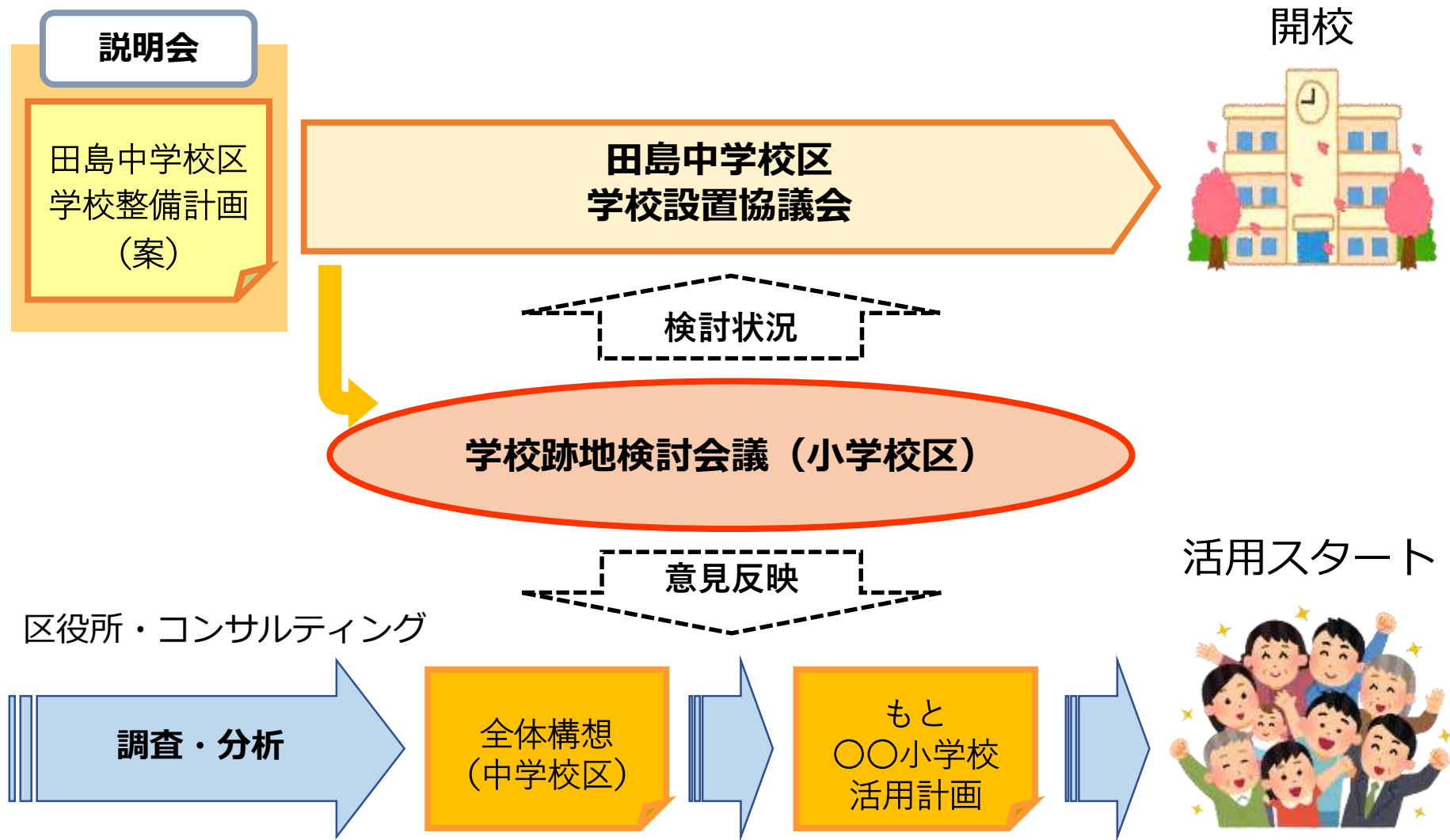
外構工事  
改修工事等

※2021（平成33）年4月開校のためには、11月末までに開校時期の確定が必要

# 通学路の安全対策



# 跡地検討の進め方



(具体的な学校のイメージ)  
は後ほどご説明します。



# 学校設置協議会

## 田島中学校区 学校設置協議会

